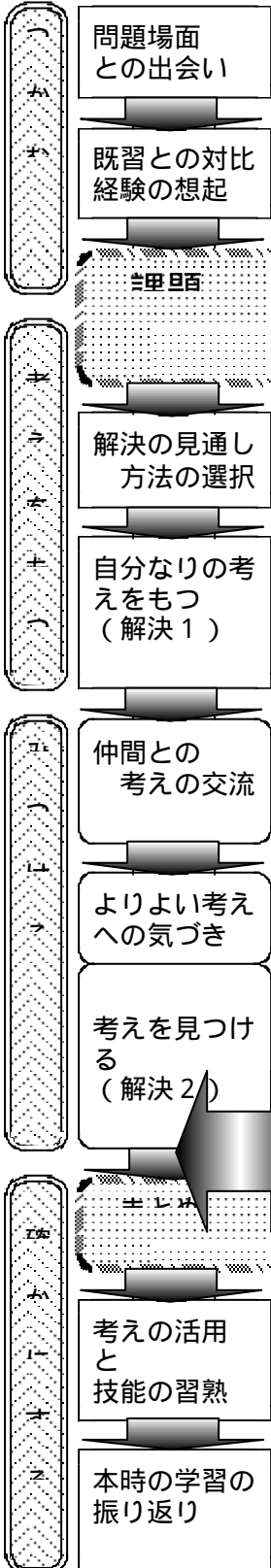


多様な考え方のまとめ方は4タイプ

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100



多様な考えの特性から、子どもの考えを生かしてまとめましょう。授業が活発になればなるほど、子どもの多様な考えが引き出されます。しかし、その多様な考えをうまくまとめられずに、困ってしまうことも多いものです。多様な考えをどうまとめるかについては、上越教育大学の古藤怜教授の活用性の高いまとめ方があるので、紹介します。

(1) 独立的な多様性 ジャンケンの組み合わせ

例：6 学年 場合の数
 場合の数の求め方は、樹形図 組み合わせ表 図・・・というようにいくつもの方法が考えられます。しかし、それらはどれもよい方法で、序列をつけることはできません。この場合には、どれがよいというのではなく、それぞれの方法のよさを納得させることが大切になります。

(2) 序列化可能な多様性 13-9=4

例：1 学年 13 - 9
 くり下がりのあるひき算では、数えひき 減減法 減加法の3タイプがあります。この場合、どれもよい考えですねといったは、子どもの力は育ちません。特殊な場合をのぞき、減加法のよさに気づき、十分に使えるようにすることが大切なはずで、このような場合には、解決2を通して減加法のよさを十分に味わわせることができるようにすることが必要です。

(3) 統合化可能な多様性

例 5 学年 面積
 平行四辺形の面積を求める場面では、操作によりいろいろな方法が考えられますが、これらはすべて「長方形の面積に置き換える」という考え方に集約できます。このように、いくつかの方法の背後にある考え方をまとめることができる場合には「考えを統合」して共通点をまとめてやる必要があります。

(4) 構造化可能な多様性

例 5 学年 面積
 (3) で述べたように、一つに統合される問題も、たとえば、台形の面積の求め方の場合には
 三角形2つに変形して等積変形
 平行四辺形に倍積変形
 の2つのタイプに分けられ、それを「既習の形に置き換える」という一つの考え方でくくることとができます。このような場合には、構造化して取り組む必要があります。

よさを味わうのは、子ども自身なのだということを、わすれないように・・・

解決3については、子どもが「楽しんでできる」くらいにしたいものです。いたずらに難しい問題を出すのではなく、コースを分けたり、「～に挑戦」とすることが大切と考えましょう。